

2025度自己点検・評価報告書

実施部署： 総合数理学部

数理・データサイエンス・A I (学内視点)		各部署記入欄		
NO	点検項目	自己評価	点検項目について、構成項目を踏まえた現状説明	自己評価を踏まえた課題とその発展方策
①	プログラムの履修・修得状況	A	2025年度から、学部生全員が原則履修するための取り組みを開始した結果、履修率の向上につながった。	引き続き、ガイダンスでの周知を継続するとともに、選択必修科目の履修状況についての状況確認を進める。
②	学修成果	B	学生に対するアンケートにおいて、どのようなことが理解できるようになったかについて複数自由選択形式で質問した結果、最も選択された項目として多かったものは、昨年度と同様「分析目的に応じた、適切なデータ分析手法、データ可視化手法の選択」(59%)であった。これは、コアカリキュラムにおける「データサイエンス基礎」の内容と相ついでのものであり、一定程度知識が身につけていることが確認できる。また、「コンピュータでデータを扱うためのデータ表現の基礎」(50%)や「データを収集・処理・蓄積するための技術の概要」(56%)といったデータエンジニアリングに力がかかる内容は前年と同程度かやや高い水準となりつつあると評価できる一方、「機械学習(教師あり学習、教師なし学習)、深層学習、強化学習の基本的な概念」(41%)といった機械学習・AIの構築に関わる内容についてはやや下がった。	応用基礎レベルの学修内容について一定程度以上の修得状況であると考えられる。割合が維持された項目が大半であるが、「データを収集・処理・蓄積するための技術の概要」については改善した一方で、「機械学習(教師あり学習、教師なし学習)、深層学習、強化学習の基本的な概念」は昨年度に比べて割合がやや下がっていることから、変動につながっている学習状況やカリキュラムについての確認・把握を進める。
③	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	B	学生に対するアンケートにおいて、「数理データサイエンス人工知能応用基礎レベルプログラム」の科目群で定められた科目の内容を理解できましたかという質問を行っている。これに対し、2025年度は44%の学生が「よく理解できた」、56%の学生が「少し理解できた」と回答しており、すべての回答が肯定的回答であった。前年度と比較すると、「よく理解できた」の割合はほぼ変化がなく、本プログラムの学修内容について一定程度の成果が得られていることが確認できている。	「よく理解できた」の割合が半数近くであることは継続しているが、引き続き、この割合をさらに上げていくことが課題として挙げられる。そのため、授業改善アンケート報告書のさらなる活用といった学生の理解度向上のための取り組みを進める。
④	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	B	学生に対するアンケートのうち、「数理データサイエンス人工知能応用基礎レベルプログラム」を他の学生にも勧めたいですか?という設問に対して、「はい」の回答が全体の96%と2025年度もほぼ同等の高い割合となっており、非常に高い推奨度を持っている点は高く評価できる。その理由として、無理なく履修できるプログラムであること、「パーシクプログラム」については、2年次までの科目で履修できることが考えられる。	引き続きプログラムの内容についての説明を丁寧に行って推奨度を維持する。
⑤	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	B	他学部からの履修が可能なプログラム設計であるものの、中野キャンパスでの開講であることから、他キャンパス学生には履修が難しい状況ではあることから、結果として、2025年度についても実際に履修したものはいなかった。今年度の大学ガイドにデータサイエンス特集が組まれ、プログラム概要について紹介した。	他学部における潜在的な履修者はいるとみられることから、引き続きチラシやwebページにおける学内広報を進めるとともに、関係部署との連携を進める。
数理・データサイエンス・A I (学外視点)		各部署記入欄		
NO	点検項目	自己評価	点検項目について、構成項目を踏まえた現状説明	自己評価を踏まえた課題とその発展方策
⑥	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	B	学部広報パンフレット作成の過程において、修了生のインタビューやヒアリングを実施し、修了生からみた本プログラムの有用性についてのコメントを得ている。	今後は、修了者の活躍状況や企業における評価についてのヒアリングを実施する。
⑦	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	A	産業界からの視点の意見を得るために、プログラム内容や過去のプログラム修得状況について、前年度に引き続き、小委員会メンバーに関係する企業関係者に説明して意見聴取を行い、一部科目等に意見を反映した。本学部には一定程度産業界出身の教員がいることから、プログラム設計時に当該教員の意見を取り入れて設計している。	引き続き、小委員会メンバーに関係する企業を中心に、本プログラムのプログラム実施内容等についての意見をヒアリングするとともに、再認定にむけたカリキュラム構築についても意見を求めていく。また、産業界出身の学内教員にも引き続き意見を求める。
⑧	数理・データサイエンス・A Iを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	B	学生に対するアンケートにおいて、「数理データサイエンス人工知能応用基礎レベルプログラム」を履修して、データサイエンスや人工知能への関心が高まったり、これを学ぶ意義が理解できましたか?という質問をしている。肯定的回答(「大いに当てはまる」「やや当てはまる」)の割合が98.9%にいたっており、前年度に引き続き高い水準である。本プログラムにおいて、学ぶことの意義を理解させることについて成功していると評価できる。	学ぶ意義について高い水準での理解が引き続き得られるよう、プログラム内容の説明や演習科目の実施を継続していく。
⑨	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	B	FDの一環として以前より実施されている「授業改善アンケート」について、2021年度から10名以上の履修者のある講義で原則実施されており、本プログラムを構成する科目もそのほとんどがこの対象となっている。また、回答結果をもとに翌年度の講義にフィードバックするための全学的な仕組みである「授業改善アンケート報告書」について、教学担当教務主任が内容を確認し、授業内容・水準の維持にフィードバックできる体制を整えている。	「授業改善アンケート」の結果についての実施小委員会での活用について引き続き検討する。また、「授業改善アンケート報告書」について、教学担当教務主任が引き続き確認することで、内容・水準の維持を図る。

- A. 課題を改善した又は新たな取り組みがあった
- B. 概ね前年通りである又は特に問題はない
- C. 更なる改善が必要な点がある